



平成26年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年4月18日

上場会社名 株式会社ジョイフル本田 上場取引所 東
 コード番号 3191 URL <http://www.joyfulhonda.com/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)矢ヶ崎 健一郎
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経理部長 (氏名)吉原 悟郎 (TEL)029(822)2215
 四半期報告書提出予定日 — 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年6月期第2四半期の連結業績(平成25年6月21日～平成25年12月20日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年6月期第2四半期	87,802	—	4,610	—	5,334	—	3,218	—
25年6月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 26年6月期第2四半期 3,239百万円(—%) 25年6月期第2四半期 —百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年6月期第2四半期	125.05	—
25年6月期第2四半期	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年6月期第2四半期	176,876	143,055	80.9
25年6月期	172,619	140,331	81.3

(参考) 自己資本 26年6月期第2四半期 143,055百万円 25年6月期 140,331百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年6月期	—	0.00	—	20.00	20.00
26年6月期	—	0.00	—	—	—
26年6月期(予想)	—	—	—	50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年6月期の連結業績予想(平成25年6月21日～平成26年6月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	176,714	△0.1	9,154	△9.3	10,436	△9.5	6,343	△8.3	245.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

26年6月期2Q	25,806,440株	25年6月期	25,806,440株
26年6月期2Q	70,680株	25年6月期	70,680株
26年6月期2Q	25,735,760株	25年6月期2Q	25,735,760株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態の分析	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や日本銀行の金融緩和策が徐々に浸透し、輸出企業を中心に業績の向上や株価の上昇などをもたらし、緩やかな回復軌道を描き始めましたが、一方では、円安による原材料価格の上昇や、中国をはじめ新興国経済の減速など経済の行方に不透明感が拭えない状況が続いております。

小売業界におきましても、消費税増税による景気の下振れリスクを抱え、個人消費が本格回復に至らない中、消費者の節約・低価格志向は一層顕著となり、業種・業態を超えた激しい販売・価格競争が繰り広げられております。

そのような中、当社は更なるお客様の利便性拡大を追求し、既存店舗の強化に取り組んでまいりました。9月には宇都宮店にタイヤセンターと眼鏡売場を増設し、12月には古河店をリニューアルシグランドオープンを行っております。また、将来的な需要の高まりを見据え、新規事業としてネット通販を行うEC事業部を立ち上げました。これにより、当社の豊富な品揃えと魅力ある商品群を幅広くお客様にお買い求めいただけるよう更に努めてまいります。

以上のような取り組みを行ってまいりましたが、全国的な天候不順の影響や原油をはじめとする原材料価格の上昇、また地方経済への景気回復波及の遅れなどもあり、当第2四半期連結累計期間の売上高は878億2百万円、営業利益は46億10百万円、経常利益は53億34百万円、四半期純利益は32億18百万円となりました。

事業部門ごとの業績を示すと次のとおりであります。

ホームセンター事業

ホームセンター事業の売上高は、869億38百万円となりました。これは、全国的な天候不順や、省エネ需要の低迷などから来店客数が減少したためであります。

(主要商品部門別の状況)

①「住まい」に関する分野

(a) 住宅資材・DIY

前期は大型台風などの自然災害による補修需要がありましたが、当期は、猛暑や台風等の天候不良の影響を受け売上が伸び悩みました。また、節電、省エネ商品であるよしずや、シェード、LED電球等も前期対比で減少しました。消費税増税による駆け込み需要により建設業者への販売は持ち直しているものの結果として、売上高は、106億91百万円となりました。

(b) 住宅インテリア

夏場は節電意識の減退などからスタレやござなどの季節商品の売上が低調でした。カーテンは、遮光カーテンや裏地付カーテンなどの単価の高い商品の売上が減少しました。結果として、売上高は、51億21百万円となりました。

(c) ガーデンライフ

夏場の猛暑に加え、秋の植付時期などの需要期における台風や気温の低下等気候の影響を受け来店客数が減少しました。季節商品のイベント開催等に取り組みましたが、集客不足を補うことはできませんでした。結果として、売上高は、38億92百万円となりました。

(d) アグリライフ

秋資材やネット資材などの農業資材類、刈払機や発電機などの大型機械の売上高が前期対比で減少しました。また、前期に渇水対策需要で伸びた散水用品や浄水器などの水道用品も低調でした。結果として、売上高は、44億81百万円となりました。

(e) エクステリア

外壁塗装やサンルーム、人工木デッキ、物置等の完成工事が順調に推移しました。また、消費税増税による駆け込み需要もあり前期を上回りました。結果として、売上高は、31億70百万円となりました。

(f) リフォーム

取り組みを強化している太陽光発電工事や大型物件の完工等により屋根工事が順調に推移しました。加えて、台所・トイレ・浴室関連商品も好調でありました。結果として、売上高は、64億35百万円となりました。

②「生活」に関する分野

(a) 生活雑貨

夏場においては、殺虫剤や虫除け薬等の季節商品や、ミネラルウォーター・スポーツ飲料が伸び悩みました。また、健康志向の高まりなどから前期実績を伸ばした栄養補助食品、健康食品や原価上昇した野菜ジュースが前年同期と比較して減少しました。一方、価格政策が奏功し酒類の販売が好調に推移したため、売上高は、303億35百万円となりました。

(b) ガソリン・灯油

灯油は、販売単価の上昇に加えて12月上旬までの気温が平年より高かったため、販売数量が減少し売上高が前年同期と比較して減少しました。一方、ガソリンは、低燃費車の普及等もあり販売数量は前年同期を下回りましたが、販売単価の上昇や本年4月に新設したJSS富里店の貢献もあり結果として、売上高は、121億32百万円となりました。

(c) ペット

犬猫生体は各種イベントの取組みが好調で売上が伸長しましたが、ペットベットや洋服などの犬猫用品、ドッグフードなどの各フード品は売上が伸び悩み前期対比で減少しました。結果として、売上高は、41億37百万円となりました。

(d) アート・クラフト、ホームセンター周辺部門

主力のJOYFUL-2をはじめ飲食やアンティーク等主要事業が伸び悩みました。飲食ではファーストフード（ひたちなか、宇都宮、瑞穂、千代田）の4店舗を閉鎖しました。結果として、売上高は、60億87百万円となりました。

その他の事業

その他の事業では、スポーツクラブの運営等を行っております。クラブ会費収入は、会員数は増加したものの会員単価低下の影響により減少しました。またショップ収入やレストラン収入、催事収入等の会費外収入が減少しております。スクール会費収入は、新クラスの設置等の取り組みにより堅調に推移し増加しましたが全体をカバーするには至らず、売上高は、8億63百万円に留まりました。

(2) 財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況

資産は、前連結会計年度末に比べ42億57百万円増加し、1,768億76百万円となりました。これは主として、現金及び預金の増加17億29百万円、たな卸資産の増加23億47百万円、売掛金の増加4億82百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ15億33百万円増加し、338億20百万円となりました。これは主として、買掛金の増加30億3百万円、未払法人税等の減少3億34百万円、未払金の減少3億19百万円、長期未払金の減少2億94百万円、1年内返済予定の長期借入金の減少2億92百万円、長期借入金の減少1億69百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ27億24百万円増加し、1,430億55百万円となりました。これは、四半期純利益32億18百万円の計上及び配当金の支払い5億14百万円によるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ10億29百万円増加し366億29百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動の結果得られた資金は、45億56百万円となりました。主な資金の増加要因は、税金等調整前四半期純利益51億87百万円、減価償却費19億6百万円、仕入債務の増加額30億3百万円であります。主な資金の減少要因は、たな卸資産の増加23億47百万円、法人税等の支払額21億40百万円であります。

投資活動の結果使用した資金は、24億7百万円となりました。主な資金の増加要因は、定期預金の払戻による収入18億円であります。主な資金の減少要因は、有形固定資産の取得による支出15億83百万円、定期預金の預入による支出25億円であります。

財務活動の結果使用した資金は、11億18百万円となりました。主な資金の減少要因は、長期借入金の返済4億61百万円、配当金の支払い5億14百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当連結会計年度（平成26年6月期）の業績見通しにつきましては、連結売上高1,767億14百万円、連結経常利益104億36百万円、連結当期純利益63億43百万円を見込んでおります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年6月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年12月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	71,895	73,625
売掛金	2,064	2,547
たな卸資産	17,349	19,696
その他	2,309	2,019
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	93,615	97,885
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	72,786	73,590
土地	32,638	33,064
その他	7,023	7,301
減価償却累計額	△42,987	△44,507
有形固定資産合計	69,459	69,448
無形固定資産	1,813	1,744
投資その他の資産	7,730	7,798
固定資産合計	79,003	78,991
資産合計	172,619	176,876

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年6月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年12月20日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	10,614	13,617
短期借入金	100	100
1年内返済予定の長期借入金	707	415
未払法人税等	2,125	1,790
賞与引当金	242	183
役員賞与引当金	65	23
その他	6,821	6,548
流動負債合計	20,676	22,680
固定負債		
長期借入金	705	535
退職給付引当金	2,154	2,202
資産除去債務	3,448	3,484
その他	5,302	4,917
固定負債合計	11,611	11,140
負債合計	32,287	33,820
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,000	12,000
資本剰余金	12,583	12,583
利益剰余金	115,938	118,642
自己株式	△197	△197
株主資本合計	140,325	143,029
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6	27
繰延ヘッジ損益	△0	△0
その他の包括利益累計額合計	5	26
純資産合計	140,331	143,055
負債純資産合計	172,619	176,876

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年6月21日 至平成25年12月20日)
売上高	87,802
売上原価	66,560
売上総利益	21,242
営業収入	
不動産賃貸収入	1,835
サービス料等収入	327
保険代理店手数料	13
営業収入合計	2,176
営業総利益	23,418
販売費及び一般管理費	18,807
営業利益	4,610
営業外収益	
受取利息	27
受取配当金	5
持分法による投資利益	84
技術指導料	153
受取手数料	232
その他	325
営業外収益合計	828
営業外費用	
支払利息	6
支払手数料	64
その他	33
営業外費用合計	104
経常利益	5,334
特別損失	
固定資産売却損	0
固定資産除却損	146
特別損失合計	147
税金等調整前四半期純利益	5,187
法人税、住民税及び事業税	1,737
法人税等調整額	231
法人税等合計	1,969
少数株主損益調整前四半期純利益	3,218
四半期純利益	3,218

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間
(自 平成25年6月21日
至 平成25年12月20日)

少数株主損益調整前四半期純利益	3,218
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	20
持分法適用会社に対する持分相当額	0
その他の包括利益合計	20
四半期包括利益	3,239
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	3,239

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年6月21日 至平成25年12月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	5,187
減価償却費	1,906
負ののれん償却額	△54
持分法による投資損益(△は益)	△84
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0
賞与引当金の増減額(△は減少)	△58
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△42
退職給付引当金の増減額(△は減少)	48
受取利息及び受取配当金	△32
支払利息	6
固定資産除却損	146
固定資産売却損益(△は益)	0
売上債権の増減額(△は増加)	△482
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,347
仕入債務の増減額(△は減少)	3,003
未払消費税等の増減額(△は減少)	14
その他	△540
小計	6,671
利息及び配当金の受取額	32
利息の支払額	△7
法人税等の支払額	△2,140
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,556
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△2,500
定期預金の払戻による収入	1,800
有形固定資産の取得による支出	△1,583
無形固定資産の取得による支出	△23
有形固定資産の除却による支出	△108
その他	7
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,407
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	200
短期借入金の返済による支出	△200
長期借入金の返済による支出	△461
リース債務の返済による支出	△142
配当金の支払額	△514
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,118
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,029
現金及び現金同等物の期首残高	35,599
現金及び現金同等物の四半期末残高	36,629

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年6月21日 至 平成25年12月20日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	ホームセンター事業	計		
売上高				
外部顧客への売上高	86,938	86,938	863	87,802
セグメント間の内部売上高 又は振替高	35	35	0	36
計	86,973	86,973	864	87,838
セグメント利益	4,354	4,354	254	4,609

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、スポーツクラブ事業を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,354
「その他」の区分の利益	254
連結会社間取引消去	1
四半期連結損益計算書の営業利益	4,610

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。